

子宮内膜症による生理痛と不妊の相関関係



先日、ある患者様が、長年のひどい生理痛が不妊の原因と思ひこみ、重度の子宮内膜症であると思ひこまれていました。ところが、検査をしてみると、ごく軽症の子宮内膜症しか見られず、それは不妊の原因に相当するものではありませんでした。

●生理痛の重さと子宮内膜症の重症度に相関関係はない

グラフは『子宮内膜症の重症度（軽、中、重）と生理痛の重さ』の関係を表しています。「子宮内膜症が軽度」の人で生理痛が重度なのは22%、中度20%、軽度37%で、一方、「子宮内膜症が重度」の人で生理痛が重度なのは35%、中度15%、軽度33%となっています。このグラフから言えることは、子宮内膜症の重症度と生理痛の重さに相関関係はあまりないということです。生理痛がひどいから子宮内膜症がひどい、生理痛が軽いから子宮内膜症ではない、ということは言えないということです。

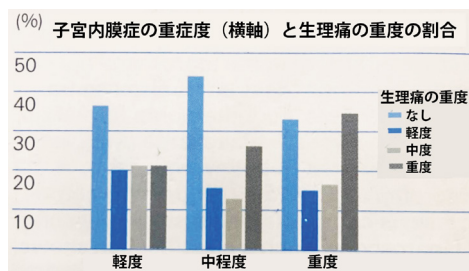
●不妊の原因になりうる重症の子宮内膜症

子宮内膜症は痛みと不妊が主な症状で、近年のライフスタイルや価値観の多様化により増加しています。子供のいる女性の20～25%、不妊の女性の40～50%程度に子宮内膜症が合併しているといわれ、不妊治療が飛躍的に進歩した現在でも完全には治らず、大きな課題となっています。

子宮内膜症は軽度の場合は不妊の原因とはなりません。が、重度の場合は妊娠率を低下させます。特に、卵管周囲で生じた癒着は、卵管の通過障害の原因となつて不妊となっているケースも少なくありません。

●早期発見により妊娠率を高められる

妊娠を希望していながら子供に恵まれない方は、一度婦人科で子宮内膜症の有無をチェックすることをお勧めします。次第に悪化する生理痛が子宮内膜症の早期発見のポイントですが、自己判断で子宮内膜症を判断することはできません。診察と血液検査、画像診断（超音波、MRI、CTなど）、より精密な検査は腹腔鏡で行うことができ、適切な治療を行えば妊娠率を高められます。



*『フェルチクリン』の中野英二医師に解説していただきました。

フェルチクリン FERTICLIN

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista - São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566

www.ferticlin.com.br / contato@ferticlin.com.br

